



12月4日に昭和地区にオープンした「みなぎの里大國屋」で対談

**市長** 補正予算の可決後、すぐに通学路の路面標示をした。

**議長** 議会としても、市民を守りたい気持ちは同じでした。特に市民の命や安全に関わる事業については、速やかに予算の必要性を判断するよう努めました。昨年11月4日、市内の国道を横断中の親子2組が乗用車にはねられる事故が起きた後も、11月19日に臨時市議会を開催し、交通安全対策に係る補正予算を審議しました。

**市長** やはり、市の中心部だけでなく周辺地域をいかに活用していくかが重要です。高梁川以西の地区や池田地区などの人口が減少している地域に対

**議長** しかし、人口が増えているのは利便性に優れた市街地で、市内には減少している地域もあります。

**市長** 今後も地域に光を当て、市民に寄り添った政策を進めていきます。

**議長** 超高齢社会において、この取り組みは先進的だと思います。地域住民が、サービスを提供する側と提供される側の両方の役割を担っていて、「みなぎの里大國屋」を中心としたコンパクトシティになっていきます。このような事業は、行政だけでも、地域だけでも実現できません。お互いの協力体制がよくできていて、素晴らしいと思います。

**市長・議長** 明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひします。

**令和3年を振り返って**

**市長** 昨年を振り返ると、新型コロナウイルス感染症や交通事故から、市民

の命を守るために尽力した年でした。

**議長** 新型コロナウイルス感染症対策では、ワクチンの集団接種が印象的でした。吉備医師会・吉備歯科医師会・岡山県薬剤師会吉備支部などと上手に連携できたことが、迅速なワクチン接種につながったのではないかと思います。

います。医療現場との連携は、簡単なように見えて実は難しいことですね。

**市長** 皆さんのご協力に心から感謝しています。接種対象者のうち、85%を超える市民へ2回目のワクチン接種を完了させることができました。接種のスピードが落ちなかったのは、市民会館で1日最大2000人の大規模集団接種を行えたことが大きかったですね。

**人口減少地域にも光を当てる政策**

**市長** 今、総社市は人口が増えており、7万人到達目前です。高速道路のインターチェンジがある東部地区を中心に企業誘致が進んでいるので、まさに雇用や税収を増やしていく絶好のチャンスです。合わせて、障がい者雇用をさらに推し進めていきます。

して、それぞれ独自の政策を打ち出していく必要があります。この地域活性化施設「みなぎの里大國屋」もその政策の一つです。飲食の提供や野菜の販売など、昭和地区の住民が主体となって運営しています。建物は西日本豪雨時の仮設住宅を再利用したもので、昭和地区の復興のシンボルでもあります。

**議長** 超高齢社会において、この取り組みは先進的だと思います。地域住民が、サービスを提供する側と提供される側の両方の役割を担っていて、「みなぎの里大國屋」を中心としたコンパクトシティになっていきます。このような事業は、行政だけでも、地域だけでも実現できません。お互いの協力体制がよくできていて、素晴らしいと思います。

## 総社市長 片岡 聡一

昭和34年8月2日生まれ（62歳）。2007年の総社市長選挙で初当選。2019年10月に行われた選挙では無投票で当選し、現在4期15年目。

市民に寄り添い、どの地域にも光を当てていく政策を実行していきたい

# 2022 新春対談



Soichi Kataoka



## 総社市議会議員 村木 理英

昭和36年7月2日生まれ（60歳）。2002年から旧総社市議会議員を務め、新総社市議会議員として6期目。2021年10月、議長に初就任。

議員一人ひとりが確固たる信念をもち、突き進むことができる議会をつくりたい

Riei Muraki